



平成 27 年 5 月 1 日

各 位

会 社 名 テクマトリックス株式会社
代表者名 代表取締役社長 由利 孝
(コード：3762、東証第一部)
問合せ先 執行役員管理本部長 森脇 喜生
(TEL. 03-5792-8601)

中国での遠隔医療事業に関する合弁契約締結のお知らせ

当社は北京ヘルスバンク・テクノロジー有限公司と、下記の通り合弁会社を設立する合弁契約を締結いたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 合弁会社設立の理由

中国では、高度な医師が不足している上に都市部に偏在しており、都市部と地方との医療格差が顕在化しています。広大な国土を抱える中国では、これを是正するのは容易ではありません。中国政府は、この状況を改善し、医療のクオリティを高める為の施策として、遠隔医療を後押しする政策を立て続けに打ち出しており、遠隔医療のビジネスが大きく飛躍しようとしています。また、巨大な富裕層人口を抱える中国では、それら富裕層による海外への医療ツーリズムが大きなビジネスになっています。特にがん等の早期診断や先進治療における日本の医療への期待は非常に高く、ツーリズムと組み合わせて、中国国内で撮影された放射線や病理の画像を日本の医師が遠隔で診断する需要があり、遠隔医療は国境を跨ぐ形でも活用されようとしています。

合弁相手先である北京ヘルスバンク・テクノロジー有限公司は、医療サービス事業に特化したベンチャー企業ですが、富裕層向け医療ツーリズムの事業を既に立上げており、また中国国内の有数の医療機関とも提携関係にあります。一方、当社グループにおいては、平成19年に合同会社医知悟を設立し、遠隔による放射線、病理等の画像診断を支援するITサービスを日本国内で展開しており、遠隔医療の技術とノウハウを有しております。この度、両社で合弁会社を設立し、両社の顧客、ネットワーク、技術、ノウハウを最大限活用しながら中国における遠隔医療事業に参入いたします。

2. 合弁会社設立（業務提携）の内容

合弁会社の登記完了後、合弁会社と当社はソフトウェアライセンス契約を締結し、当社ならびに子会社の合同会社医知悟が開発した遠隔医療ソフトウェアのライセンスを供与します。合弁会社では、本ソフトウェアを基盤に早期に事業を立ち上げるとともに、中国の顧客や業務の要求に基づいたローカリゼーション、追加機能の開発を行います。

また、合弁相手先である北京ヘルスバンク・テクノロジー有限公司が保有する中国国内の病院、医師、顧客等の資産を活用するとともに、合弁会社が計画する医療ツーリズムに関わる遠隔医療事業では、合同会社医知悟のユーザーである日本国内の医師のネットワークを活用します。

3. 合弁会社の概要

(1)名 称	北京传祺泰科医疗信息技术有限公司（仮） （日本語名称：北京ヘルステック医療情報技術有限公司）
(2)所 在 地	北京市
(3)代表者の役職・氏名	董事長 曹培海
(4)事 業 内 容	遠隔医療システムの開発・販売 遠隔医療システムに関わるITサービスの提供
(5)資 本 金	1,000万人民元（約2億円）
(6)設 立 年 月	平成27年8月（予定）
(7)決 算 期	12月
(8)出 資 比 率	北京伝祺盛世健康科技有限公司：60% テクマトリックス株式会社：40%

4. 合弁相手先の概要

(1)名 称	北京伝祺盛世健康科技有限公司（北京ヘルスバンク・テクノロジー有限公司）
(2)所 在 地	北京市朝陽区
(3)代表者の役職・氏名	董事長 曹培海
(4)事 業 内 容	①健康診断、機能性医学、アンチエイジングなどによる健康管理 ②重大疾患の早期予防、治療 などの医療支援サービス
(5)資 本 金	1,500万人民元（約3億円）
(6)設 立 年 月	平成25年7月
(7)決 算 期	12月

5. 合弁会社の業績見通し

合弁会社である北京ヘルステック医療情報技術有限公司は、平成28年12月期における黒字化を目指しています。

6. 業績に与える影響

本合弁会社設立による平成28年3月期連結業績に与える影響は軽微であります。なお、今後、合弁会社の事業が本格化し、当社連結業績に重要な影響が見込まれる場合には、別途公表いたします。

以 上